

7月雇用統計を受けた米国株の動きについて 米国株高をけん引してきたハイテク株への選好は続くと考え

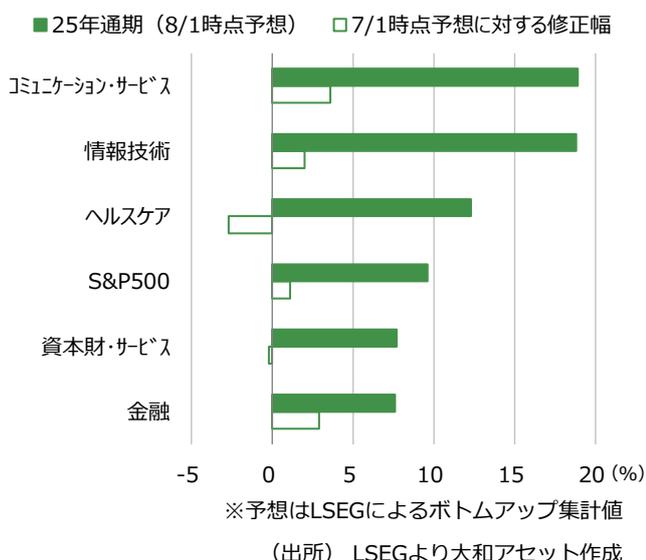
2025年8月5日

雇用統計ショックに見舞われた米国株だったが、すぐさま切り返した

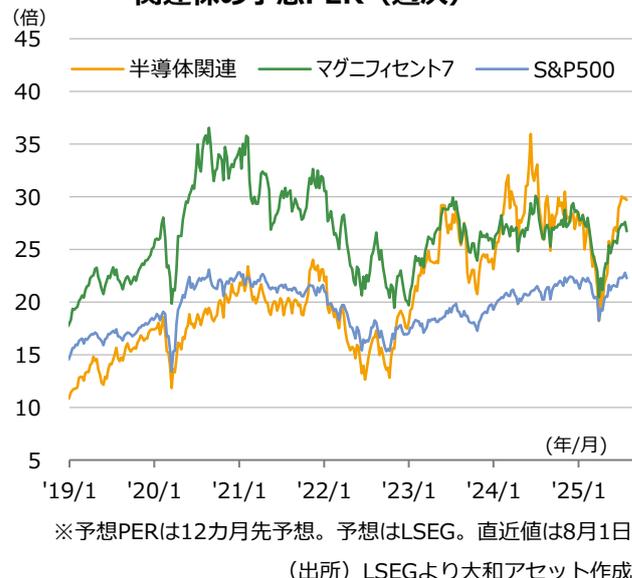
8月1日（金）の米国株式市場ではS&P500が前日比▲1.6%と大幅安となりました。引き金となったのは同日発表の7月雇用統計でした。非農業部門雇用者数が前月差+7.3万人と市場予想（+10.4万人）を下回り、更に5、6月分が大幅下方修正（合計▲25.8万人）されたことで、米国景気への楽観論に冷や水を浴びせました。市場では関税の本格的引き上げを前に、企業が採用を抑制しているのでは、との見方も台頭しています。もっとも4日（月）になると、S&P500は前週末比+1.5%と大きく反発しました。雇用統計を受けて利下げ期待が高まったことや、発表が進行中の25年4-6月期決算が堅調であること、雇用統計だけでは景気が減速しているとは判断しかねること、等から買戻しが入りました。

1日の下落では相場のけん引役である大型ハイテク株も下落しました。しかし当社では以下の理由から引き続き投資対象として大型ハイテク株に注目しています。①上述の企業決算でハイテクセクターは高水準かつ事前予想を上回る通期増益率見通しを示している。②マグニフィセント7や半導体関連株の予想PERは昨年8月の米国株急落前のピーク時と比べて低水準であり、必ずしも割高とは言えない。③利下げ期待拡大に伴う金利低下は高PER株であるハイテク株にとってプラス。④仮に景気後退懸念が高まるのであればクオリティ株である大型ハイテク株が選好されやすい。今後、景気の先行きには警戒心を持つ必要がありますが、成長性と安定性を兼ね備えた大型ハイテク株を軸とした投資戦略は有効と考えています。

■ 図表1 S&P500構成銘柄の25年通期の
セクター別予想増益率上位



■ 図表2 S&P500内のマグニフィセント7・半導体
関連株の予想PER (週次)



当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。